

虫歯になりやすい歯の異常は西高東低
～日本小児歯科学会全国調査の結果から～

【目的】

日本小児歯科学会全国調査の結果をもとに、エナメル質形成不全（虫歯になりやすい歯）の各地域ごとの有病率を算出し地域ごとの特色を調べました。

【方法】

調査は、日本小児歯科学会臨床研究推進委員会が、平成27年10月から平成28年1月の間に、全国47都道府県の388歯科施設の協力を得て、7歳から9歳の健常児童4,985人に対して、日本小児歯科学会認定小児歯科専門医による診察と質問票を用いて実施しました。そのうち、エナメル質形成不全の情報などが完全であった4,496人を分析の対象としました。

【結果】

・エナメル質形成不全の有病率における地域差

エナメル質形成不全の有病率は、日本全体で19.8%でした。地域別では、北海道（14.0%）、東北（11.7%）、関東信越（18.5%）、東海北陸（19.3%）、近畿（22.3%）、中国（19.8%）、四国（28.1%）、九州（25.3%）であり、全体として西高東低の地域差を認めました。最も高い四国は、最も低い東北の2.4倍になります。

左右上下の第1大臼歯のいずれかに形成不全がある場合をエナメル質形成不全と診断して、厚生労働省の管轄地域によって日本全体を8地域に区分し、各地域ごとの有病率を算出しました。

北海道 14.0%

東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）11.7%

関東信越（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野）18.5%

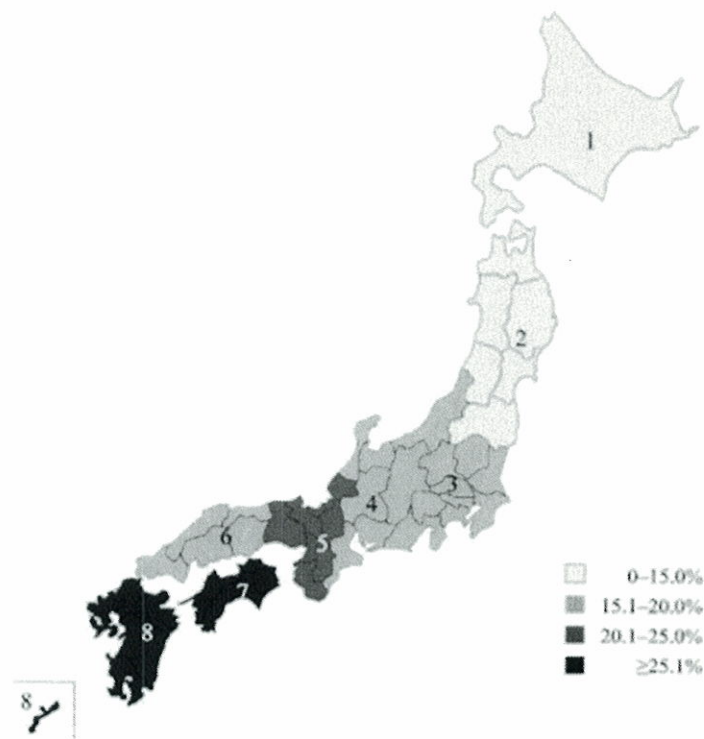
東海北陸（富山、石川、岐阜、静岡、愛知、三重）19.3%

近畿（福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）22.3%

中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）19.8%

四国（徳島、香川、愛媛、高知）28.1%

九州（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）25.3%



【結論】

永久歯の奥歯（第一大臼歯）と前歯（中切歯）のエナメル質は出生直前後の時期に形成されますが、エナメル質形成不全は、歯の色が変化し、特に前歯では審美的な問題があること、歯の質が低下するため、むし歯になりやすいことから近年注目されています。

全国規模の調査で、エナメル質形成不全を持つ小児の割合（有病率）や、西日本で高く、東日本で低い、西高東低の分布を示すことが明らかになったことは初めてのことです。

【出典】

Saitoh M, Nakamura Y, Hanasaki M, Saitoh I, Murai Y, Kurashige Y, Fukumoto S, Asaka Y, Yamada M, Sekine M, Hayasaki H, Kimoto S. Prevalence of molar incisor hypomineralization and regional differences throughout Japan. *Environmental Health and Preventive Medicine* 2018 23:55